
分岐点(改訂)

とこ

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

分岐点（改訂）

【コード】

N4893T

【作者名】

とじ

【あらすじ】

電波小説

例えば、今より良いところへ

例えば、今よりもさらに悪く

例えば、今と代わり映えなく

例えば、今と……

8 / 3 1 本文を少し変えました。

なぜこんな目に遭わなくてはならなかったのか。混乱した頭で座り込むうちに差し伸べられる手。

（この人は優しいの？下心があるの？それとも私が惨めすぎて哀れになった？）

その手に縋ってしまうほど弱くはない。けど、拒絶してしまうほど強くもなくて。誘うてのひらをただただ呆然と見つめる。

（ああ！この人は私をどうしたいのだろう。）

私はこの人をどうしたいのだろう。）

その町は港に近く、酒場とつらぶれた宿、白粉を匂わせる女とこじきのような人々の吹き溜まりだった。

ある少女がいた。
少女は独りきり、廃退的な町で生きてきた。
男に媚を売るでもなく、ゴミを漁るでもなく。
その日限りの口をまかない、独りきり、毎日を淡々と過ぎ去るままにしていた。

そんな彼女を心なき男どもが蹂躪する。
そんな、よくある、この町では日常茶飯事とも言える、そんなこと。
通りでは騒がしく日常が過ぎ去り、少女の叫びは無関心に呑み込まれていった。

ある少女がいた。
少女は独りきり、ぼんやりといつもと代わり映えのしない町を眺める。
淡々と過ぎ去る時間と人々を流れるさまをひたすらに。
世界の理不尽さなんて今更嘆くことに意味はないことを知っていたけれども今は少し、混乱していた。

ふいに影が射す。

逆光で顔が見えないけれど、一昨日の人だと少女は確信する。

なにも言わずに差し出されたてのひらはとても温かそうで、一昨日よりポロポロになった少女を惑わせる。

もしかしたら違う世界へ、もっと幸せな世界へ…？

酸素を求める金魚のようにパクパク開閉する口は音を発することはなく、いつの間にか耳がいたいほどの静寂のなか、少女は手を伸ばしていた。もしかしたら違う世界へ、もっと幸せな世界へ…？

酸素を求める金魚のようにパクパク開閉する口は音を発することはなく、いつの間にか耳がいたいほどの静寂のなか、伸ばしたてのひらは黒に包まれた。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能たんのうしてください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n4893t/>

分岐点(改訂)

2011年10月8日15時17分発行